

〈〈〈 編集後記 〉〉〉

2011年4月1日に当財団の公益財団法人への移行認定登記が完了いたしました。今後とも当財団を取り巻く諸情勢を見極めるとともに、研究助成財団としての所期の目的を念頭において、2011年度の新役員体制のもと引き続き財団の運営を推進してまいります。

2011年4月6日、当財団名誉理事の薬学博士佐藤清夫先生がご逝去されました。先生には1978年に監事をおつとめの後、1979年から常務理事、1987年から2006年まで監事として、長きにわたり財団の発展に多大な貢献をいただきました。佐藤先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

2010年度の贈呈式は、3月11日に発生した東日本大震災のため急遽中止のやむなきに至りました。科学振興賞を受賞された東京大学医科学研究所教授 河岡義裕博士への授賞式は、内藤晴夫理事長が教授室を訪問し執り行われました。河岡博士の受賞テーマは『インフルエンザ制圧に関する研究』であり、このご研究の内容につきましては、本財団時報7から23ページに記載の「第42回内藤記念科学振興賞受賞研究」をご高覧ください。

昨年度は、この科学振興賞1件と10種の助成事業に対し、合計256件、4億14万円を贈呈いたしました。これに内藤コンファレンス開催などを加えた総事業費は5億1,985万円となり、当初計画した事業をほぼ予定どおり遂行することができました。これもご寄附をお寄せくださった皆様方のご協力の賜物と、誌上を借りまして厚く御礼申し上げます。

2011年6月開催の定時評議員会における審議と臨時理事会を経て、常務理事の交替が決定し、石井三郎に替わり三井博行が6月22日付で就任いたしました。

2011年8月5日に第1回選考委員会を開催いたしました。同委員会にて、選考委員長に京都大学教授 阿形清和先生が、同代行には東京大学分子細胞生物学研究所 教授 加藤茂明先生のご就任が互選により決定いたしました。科学奨励金につ

きましては、80件の採択予定に対し今年度は313件(昨年度345件)の申請がありました。選考委員の先生方には、ご多忙のなか最も多い方には50件近く書類審査を担当いただくなど、厚く御礼申し上げます。さらに、委員会では1案件毎に、研究目的、研究実施計画に関して独創性ならびに将来性が見込まれる萌芽的研究かどうかといった検討を通して、採択候補を選出いただきました。選考結果は、同日審議した前期事業の海外学者招へい助成金、女性研究者研究助成金と併せて、9月の理事会での最終決定を経て公表の予定です。その他、今年度から新設された内藤記念科学奨励金(若手ステップアップ研究助成)については、第1回選考委員会でヒアリング対象者を選出いただき、8月26日に開催されたヒアリング選考会、12月の第2回選考委員会を経て、1月の理事会で最終決定が行われ、公表の予定です。

2008年度より年3回の開催した内藤コンファレンスですが、本年度は第30回「生体膜ダイナミクスと脂質生物学[Ⅱ]—脂質ドメイン、脂肪滴、疾患—」を、理化学研究所脳科学総合研究センターチームリーダー 平林義雄組織委員長のもとで、本年6月28日から7月1日にかけて北海道のシャトレーゼ ガトーキングダム サッポロで開催いたしました。国内外から85名の研究者が参加され、昼夜を問わず活発な議論が交わされました。つづく第31回「糖鎖の発現と制御[Ⅱ]—代謝物、ストレス応答、マイクロドメインと展望—」は、組織委員長を東海大学糖鎖科学研究所 所長 鈴木明身先生におつとめいただき、9月13日から16日にかけて北海道の同所にて開催いたします。さらに第32回「こころの機能と疾患の分子機構」は組織委員長東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授 西川 徹先生のもとで、10月18日から21日にかけて山梨県北杜市のハヶ岳ロイヤルホテルにて開催いたします。なお、コンファレンスの概要、参加者の印象記などは、本年度開催の3回分をまとめて第89号に掲載する予定です。

今後とも、当財団において特色ある事業が継続的に実施できますよう、引き続き皆様のご指導とご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。